



東大工学部で「やりたい」を見つけませんか？

東京大学

大学院工学系研究科・工学部

あれも これも 工学！

WOMEN
in
ENGINEERING!
2026

『あれもこれも工学！』

多様な工学の世界をご紹介します

『工学部×キャリア』

卒業生のリアルなキャリアを知ろう

『在学生のREAL TALK』

工学部の先輩にきいてみた

『工学部への道のり』

工学部へのルートを改めてご紹介

『工学部長インタビュー』

工学部の魅力を聞きました

『工学部生の頭の中』

学生たちが普段どんなことを考えているか聞きました



東京大学大学院
工学系研究科・工学部
YouTube「卒業生のリアル」の
動画視聴はこちらから！



東京大学工学部
FACULTY OF ENGINEERING
THE UNIVERSITY OF TOKYO

あれも これも 工学!

工学部

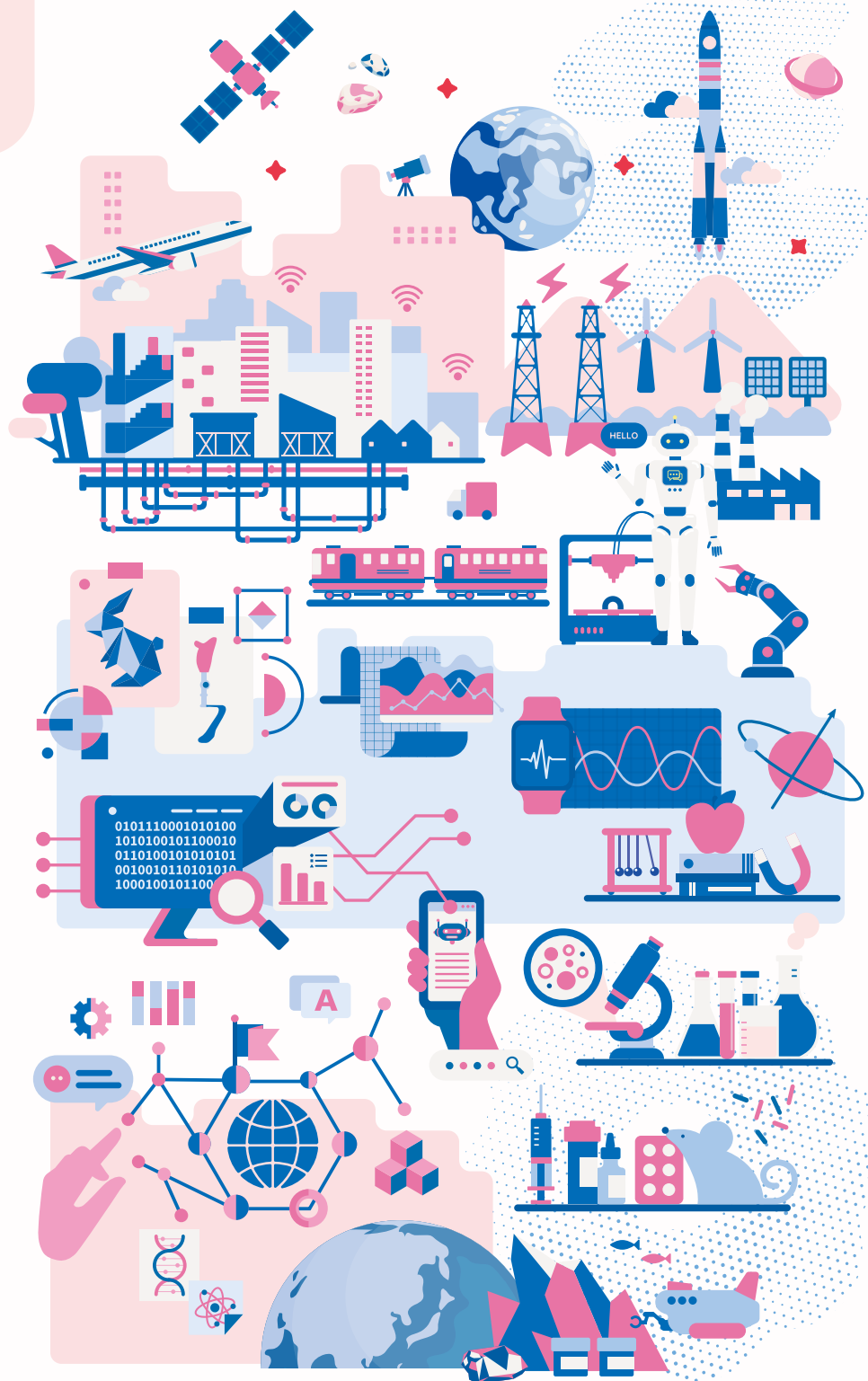
社会基盤学科
建築学科
都市工学科
機械工学科
機械情報工学科
航空宇宙工学科
精密工学科
電子情報工学科
電気電子工学科
物理工学科
計数工学科
マテリアル工学科
応用化学科
化学システム工学科
化学生命工学科
システム創成学科

大学院工学系研究科

社会基盤学専攻
建築学専攻
都市工学専攻
機械工学専攻
精密工学専攻
システム創成学専攻
航空宇宙工学専攻
電気系工学専攻
物理工学専攻
マテリアル工学専攻
応用化学専攻
化学システム工学専攻
化学生命工学専攻
先端学際工学専攻
原子力国際専攻
バイオエンジニアリング専攻
技術経営戦略学専攻
原子力専攻
ほかセンター等

みなさんは「工学」と言われて、何を思い浮かべますか?

工学は人々の豊かさのために新しいモノやコトをつくる学問で、医療や福祉、環境、建築、通信など、さまざまな領域を支えています。こうした分野の知見を組み合わせながら、近年ではデータやAIも活用し、社会の仕組みや課題を理解してよりよい形へと設計していく学問へと広がっています。



工学はどんな分野でも活かせるのが強み!

まずは大学生活の中で自分の興味や関心を探ってみましょう。東京大学では2年生の進学選択まで、学びたい分野をじっくり吟味する時間があります。1・2年生のうちに文系・理系を問わず一流の専門家による授業を通してあらゆる世界の面白さに触れ、自分の心が動いたものを深めることができます。

工学部 × キャリア

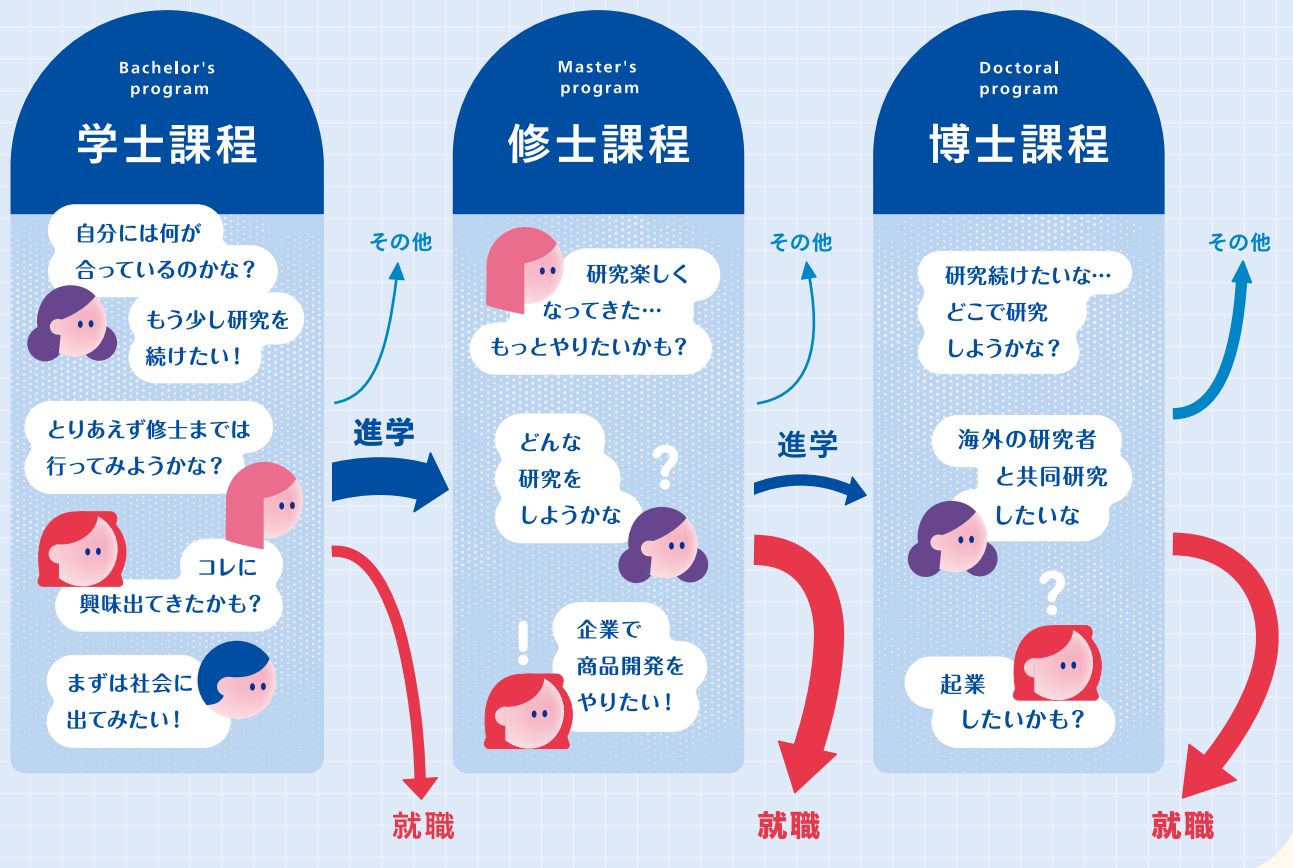
大学生になると、それまで見えていた世界が小さく感じるくらい、一気に世界が広がります。

そして、知らなかった世界や職業にたくさん出会います。

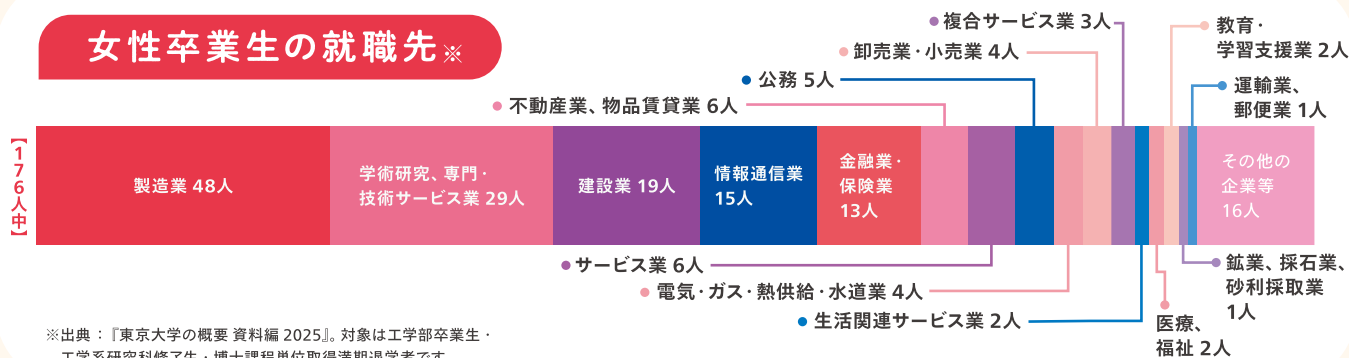
もし今あなたが中高生で、自分が好きなものややりたいものがわからなくても、全く問題ありません。

工学には社会との接点がたくさんあり、その分キャリアも多様です。

ここでは具体的に、工学部の学生たちがどんなことを考えて自分に合った選択をしていくのか、イメージをご紹介します。



女性卒業生の就職先※



次のページからは卒業生のリアルなキャリアをご紹介します！

東京大学大学院工学系研究科・工学部 YouTube チャンネルでは、『卒業生のリアル』というシリーズを公開しています。工学部・工学系研究科を卒業した先輩たちが、中高生の時や学部生、大学院生の時、どんなことで悩み、どんなことを感じていたのか。他の企画では追えなかった東大生のよりリアルな姿をとらえた試みです。

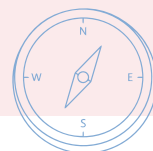
次のページからは、この企画でインタビューした6名の卒業生のキャリアの一部をご紹介します。残念ながらこの冊子には載せきれなかったエピソードもたくさんありますので、ぜひ各ページ下部のQRコードからチェックしてみてください！

『卒業生のリアル』
動画のプレイリストは
こちらから！





社会を変える大発見をしたくて理工学科へ 次なる分野を切り拓くべく 研究に励んでいます



藤代 有絵子

東京大学工学部理工学科卒
東京大学大学院工学系研究科
総合研究機構/
理工学専攻 准教授

- 両親の影響で研究者が
一番身近な職業だった
- 幼少期から夢見た宇宙
物理学者を目指し
東京大学理一類へ進学
- 教養課程で受けた
太陽電池の授業に感銘を
受け工学部へ進学
- 理工学専攻で
物性実験の研究に没頭し
博士号を取得
- 理化学研究所で
ポスドクになり
研究に打ち込む
- 学生時代からの
パートナー（同業者）と結婚
- 理研ECL研究ユニット
リーダーに着任
- ほぼ同時に第1子出産
- 東京大学大学院
工学系研究科に
准教授として着任

藤代さんの『卒業生のリアル』
動画はこちらからご視聴いただけます



「物理で社会を変える」という 使命感で理工学科へ

大学教員だった両親の影響で、幼いころから「研究者」という職業が身近でした。父と母が同じ国際会議に出席するため、私と弟を連れて行ってくれたこともあり、日々好奇心に基づいて楽しそうに研究し、海外の研究者と交流する両親の姿を見て、羨ましい職業だなと感じて研究者を目指してきました。

教養課程で受けた工学部の太陽電池に関する授業をきっかけに、それまでロマンでしかなかった物理学が、人々の生活を変えるための自分がやらなくてはならない使命のように思えてきました。物理を使って社会を大きく変える大発見をしたいと考え、理工学科への進学を決めました。

自分の手で「新しい物質」を つくり、解明する手応え

現在は「物性物理学」の分野で研究をしています。自分でアイデアを思いついて実際に物質をつくり、専門知識を持つ方々と協力してその機能を明らかにしていく。このプロセスに自らが大きく関われる自由度の高さや、解明している実感をダイレクトに味わえることが、何よりのやりがいです。

学生時代、座学はあまり得意な方ではなく、学科の宿題は同級生に助けてもらいながらこなしていました。しかし研究室に入ってから、卒業論文から博士論文へと進むにつれ研究に没頭していき、毎日日付が変わるまで研究室にいたり、閉まった門を飛び越えて帰宅したりと、楽しく充実した日々を過ごしました。



「挑戦しなかった後悔」は したくない 新しい分野の立ち上げ

博士号取得後は、国内有数の研究環境がある理化学研究所で3年間ポスドク※1として活動しました。研究に集中できる環境で数多くの実験にトライし、学びにつながる失敗もたくさん経験できました。この時期に新しく始めたのが、ふたつのダイヤモンドの先端に試料を挟み込み超高压をかける、「ダイヤモンドアンビルセル」という装置を用いた実験でし

た。装置の精密な組み立てや調整といった技術の習得には年数が必要なため、周囲からはやめた方がいいという声もあり、最初はすごく悩みましたが、もともと室温超伝導※2のような現象を自ら解明したいという思いがあり、そのために不可欠な手法だと確信していました。「今挑戦しなければ、研究者人生を終える時に必ず後悔する」と思い、勇気を持って飛び込みました。

立ち上げに何年も苦勞し、論文が出ない時期も続きましたが、周囲のサポートのおかげで基盤を整えることができました。現在は自分のオリジナリティを加えた新しい実験ができるようになり、次なる分野を切り拓くべく研究に励んでいます。

「ベストなタイミング」は 待っていても来ない

キャリアとライフイベントの両立について、大学教員として働く母の姿を見ていたため、自然とイメージできていました。

以前から子どもを望んでいた母に相談したところ、「キャリアを積むならどの時期も同じくらい大切。待っていても『ベストな時期』は来ない」とアドバイスをもらい、私は博士号取得後はなるべく早く子どもがほしいと考えて、結果的に理研のユニットリーダーにちょうど着任したタイミングで出産しました。現在は育児と研究に追われる、忙しくも楽しい日々を過ごしています。研究をしながらでも、自分にとってのタイミングを考え、両立していくことは可能です。

中高生へのメッセージ

後悔しないよう まずは挑戦を

1年後、2年後の自分がどうなっているか、いい意味で予想がつかないのが研究者の面白さです。ライフイベントとの兼ね合いを事前に計画しすぎて不安になる必要はありません。計画しても予想外のことは起きますし、すべてが予定通りにいくわけでもないからです。とにかく「挑戦しなかった」という後悔だけはしないほしい。研究においてもライフイベントにおいても、やりたいと思ったことには深く考えすぎず、まずは挑戦してみたいと願っています。

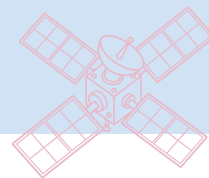
※1 博士研究員。博士号取得後に、大学や研究所で期限付きで働く人のこと

※2 常温で電気抵抗がゼロになる現象



“

漫画『宇宙兄弟』に憧れ航空宇宙工学科へ 三菱電機で、人工衛星に関わる 仕事をしています



宇宙に憧れ、宇宙工学科で ものづくりやプロジェクト活動 を体験

小中学生のころから算数や理科が好きで、高校2年生の時に「はやぶさ」帰還のニュースを見たことや、漫画『宇宙兄弟』に感銘を受けたことで、宇宙工学に強い憧れを抱きました。自分では絶対行けない場所に行く人工衛星を自分の手でつくってみたいと考え、航空宇宙工学科へ進学しました。

ものづくりと研究 どちらも体験できた学生時代

大学では、座学だけでなく自律走行ローバーの大会に出場するなど、ものづくりを体験する機会に恵まれました。研究室では超小型衛星の開発に没頭し、チームで試行錯誤しながらひとつのシステムをつくり上げるプロジェクト活動に魅力を感じるようになりました。

また、準天頂衛星システム（みちびき）の共同研究を通じて、衛星の提供するサービスが社会の悩みにどうアプローチできるかを検討していく様子を目の当たりにしたことも貴重な経験です。宇宙とは直接関係のないIT企業のインターンにも参加し、

技術が実際のユーザー向けサービスに活用される面白さを知りました。



ものづくり・チームに興味を感じ、実用に強みがある 三菱電機へ

こうした経験から研究よりもものづくりそのもの、学んできた技術が社会に実装される過程に面白さを感じました。チームでひとつの大きなシステムをつくり上げるプロジェクト活動に魅力を感じたこともあり、博士課程には進まずメーカーに就職しようと決めました。

特に、実用的なサービスをユーザーに提供することにより、やりがいを感じられそうだったため、暮らしや社会で実際に使われる衛星に強みがある三菱電機を志望しました。

設計者として人工衛星を開発 入社後も変わらぬ原動力

三菱電機では、主に官公庁向けの実用的なミッション・サービスを提供する人工衛星の開発や提案に携わっています。入社直後は人工衛星の工場である鎌倉製作所に配属され、6年間設計者として地球観測衛星や技術実証衛星などの開発に携わりました。

原動力だった「宇宙で動くものを開発したい」という気持ちは今も強く、自身が関わった衛星が打ち上がり、運用データを通じて設計通りに動いていることを確認する瞬間には、大きなやりがいと達成感を今でも感じます。

ユーザーの声を直接聞ける 「技術営業」へ

工場の設計担当は、社内やJAXAの方と接する機会が多いものの、実際に衛星を運用するユーザーと直接話す機会は限られていました。私は「ユーザーに喜んでもらうこと」にやりがいを感じていたため、直接フィードバックを受けられる立場で仕事がしたいと考え、社内異動制度（ポスティング制度）を利用して本社へ異動しました。現在は「技術営業」で、ユーザーの生の声を聴きながら技術的な説明や提案を行っています。工場でものづくりの現場を学んだことで、技術の土台を身につけたうえでユーザーと対話できており、結果的に非常によかったと感じています。

中高生へのメッセージ

やりたいことは 周囲に伝えて

やりたいことや希望のキャリアについては、恥ずかしがらずに周囲へ正直に伝えていくことが大事です。私自身、漫画『宇宙兄弟』を読んで宇宙工学をやりたいと正直に伝えたことで、先生からJAXAの一般公開の情報を紹介してもらえるなどの縁につながりました。また、一見遠回りに見える経験も大切です。私のキャリアも、あちこち興味のあることに手を出した結果が、後から振り返れば1本の線になっているように見えます。「将来の役に立つんだろうか」と考えすぎず、興味のあることにはどんどんチャレンジしてほしいと思います。

神代 優季

東京大学工学部
航空宇宙工学科卒
三菱電機株式会社
防衛・宇宙システム事業本部

- 小中学生のころから理科学科に興味
- 高校生の時宇宙工学に憧れを持つ
- 東京大学理一から進学選択で航空宇宙工学科に進学
- ものづくりのプロジェクトに参加、面白さを知る
- 超小型衛星を開発する研究室に配属、昼夜開発に明け暮れる
- 共同研究にて実用的なサービスの提供に興味を持つ
- 三菱電機入社鎌倉製作所で地球観測衛星などの開発を担当
- 複数の衛星の衛星・地上システム間設計や運用設計を担当
- 本社にて官公庁向け衛星サービスの提案・技術営業を担当

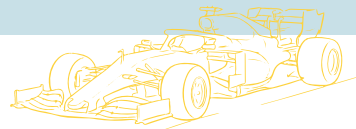
神代さんの「卒業生のリアル」
動画はこちらからご視聴いただけます





“

ロケットかF1のエンジニアに憧れ航空宇宙工学科へ 「ものをつくる喜び」を大事に 現在はAIプログラム開発に従事しています



永山 枝里

東京大学工学部
航空宇宙工学科卒
フランス系の会社にて
AI開発に従事

- 映画『アポロ13』を見てロケットを打ち上げるエンジニアに興味を持つ
- 1994年F1グランプリの総集編後半を見てF1エンジニアに興味を持つ
- いずれの将来にもつながりうる、工学部航空宇宙工学科へ進学
- 中須賀研究室でCubeSat1号機の打ち上げを経験、同期に参加した衛星設計コンテストで設計部門1位を受賞
- 第1回学生フォーミュラJ-SAEに参加し、総合3位東京モーターショーに車を出展
- 同モーターショーでルノーからチームメンバーへジョブオファーをいただく
- ルノーへ就職のちフランスへ移住
- V6エンジン開発のタイミングでルノーF1部門へ出向
- 日本へ帰国
- 帰国後キャリアチェンジして大学同期が創立したAIスタートアップ会社へ転職
- 同社でIPOを経験現在はフランス系の会社でAI開発に従事

永山さんの『卒業生のリアル』
動画はこちらからご視聴いただけます



人工衛星とF1 マシン 二つの開発に没頭した学生時代

私の現在のキャリアは、東京大学での経験が直結しています。工学部に進んだ理由は、中高生のころにロケットを打ち上げるエンジニアかF1エンジニア、どちらかになりたいと、ぼんやり描いていたからです。

所属していた中須賀研究室は、学生が設計・組み立てをした超小型衛星を実際に宇宙へ打ち上げ、運用する技術開発を行う非常に革新的な環境でした。偉大な先輩方とともに、夜中まで試行錯誤しながら開発に明け暮れた時間は大きな財産です。同時に、隣の機械工学科で発足した「学生フォーミュラ」のプログラムにも参加。衛星開発で学んだ知識を車の制御や熱設計に応用するという、研究室とものづくりサークルを横断した二重生活を徹夜で送っていました。

宇宙開発で充実感を得られた一方で、学生フォーミュラを通じて自動車会社ルノーへの就職チャンスをつかんだことから、海外で生活してみたいという思いもあり、F1 エンジニアを目指すことになりました。

選択肢を減らさない選択と 目標を口に出す文化で夢を実現

キャリア形成で常に意識してきたのは、悩んだ時は「その先の自分にとって、選択肢を減らさない方を選択」することです。例えば私には、新卒時に特筆すべき英語力がありませんでした。もし最初に海外へ出なければ、その後ライバルに勝って海外で働くチャンスはないのではないか。そう考え、あえて新卒で海外へ飛び出す道を選びました。

また、ルノーには毎年の目標とセットで長期の目標を問われる文化がありました。私が「F1 エンジニアになりたい」と言い続けると、周囲が、それならその手前でこういうことした方がいいよね、と熱心に協力してくれました。自分以上に周りが背中を押してくれる文化のおかげで、夢を実現できたのだと感じます。



「ものをつくる喜び」が やりがい

仕事のやりがいとして、常に「ものをつくる喜び」を大切にしています。F1 エンジニア時代は、勝敗が明

確になることにやりがいを感じていました。現在はAIプログラムをつくっていますが、いずれにしても完成した時に、作ったものを使ってくれる方と、何より自分自身が感動できるものをつくり続けていきたいという気持ちを大事にしています。

制度や環境に後押しされ 全力疾走

ルノーでは20年近く前から高度なジェンダーバランスが実現されており、管理職の男女比や人事指標の構造的な改善が丁寧に行われていました。私がF1 エンジニアになれたのも、確実にそんな制度や環境に後押ししてもらえたからだと思っています。

マイノリティとしてその席をいただいたからには、絶対に成果を出したいと思い、与えられた場所では全力疾走を心がけました。ちょっと疲れる生き方で、若い時だったからこそできたことかもしれませんが、常に強い責任感を持って仕事に向き合ってきました。

中高生へのメッセージ

グイグイと前へ行き、 自分から機会を取りに行って

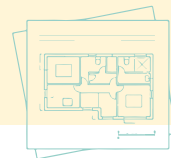
東京大学は、将来に直結する経験、切磋琢磨できる仲間、そして強い人脈を得られるまとない空間です。ぜひ目一杯の経験を積んでください。中高生や大学1・2年生の方には、ぜひ「教える」というアルバイトをお勧めします。相手に伝えるように、わからないところをどう説明すれば理解してもらえるかを実践することは、将来のプレゼンテーション力に直結します。

また、ぜひ教室の前のほうの席に座ってください。私の学生時代、女子学生は教室後方の入り口近くで固まって座っていたのですが、もっと前の方で聴けばよかったと後悔しています。周りの空気を読むのも大事ですが、せっかくの授業なので、最初の席決めの時からグイグイと前へ行き、自分から機会を取りに行っていってほしいと願っています。



“

建築が社会を変える力にひかれて、建築学科へ 鹿島で、建てた“その先”まで 考える仕事をしています



建築が社会を変える力を 知った、幼いころの原体験

建設業にひかれるようになった原点は、小学生のころの記憶にあります。高校時代に亡くなった私の父も鹿島建設（以下、鹿島）で働いており、父が担当した建物の現場に連れて行ってもらったことがありました。完成したばかりの大きな建物に多くの人が集まり、そこで新しい活動が生まれていく様子を目の当たりにし、建築は単に建物をつくる仕事ではなく、人の流れや街の在り方そのものを変える力を持っているのだと感じたことを、鮮明に覚えています。当時は言葉にできませんでしたが、「社会に新しい価値を生み出す仕事」という感覚は、このころから私の中に確かに芽生えていたように思います。

建築学科での挫折と 自分の強みへの気づき

中高一貫の女子校から東京大学理科一類に進学し、工学部建築学科へ進みました。入学後、女性の少なさや共学・男子校出身者との実力差に驚く一方で、自分の強みは、物事を整理・言語化し、わかりやすく人に伝える力だと気づきました。建築学科では製図室で昼夜を過ごし、図面や模型づくりに没頭する日々は充実していましたが、同時に挫折感も味わいました。自分よりも才能がある人たちに囲まれて、自分は本当に建築に向いているのだろうかと思悩むことも多々ありました。その悩みを経て、建築計画の研究室に所属し、知的障がいを持つ妹とともに育った経験から、福祉施設を対象に研究を行いました。使い手の視点から社会課題を建築で解決する学びに出会えたことは、その後の進路を考える上で大きな転機になりました。

鹿島で携わった 建てた後まで見届ける仕事

当時はいわゆる『就職氷河期』。女性に開かれた職種も限られる中、100社以上を回り検討し、最終的にたどり着いたのが鹿島でした。父の影響はもちろんありましたが、それ以上に、「100年をつくる会社」というコーポレートメッセージに代表されるように、長期的な視点で社会に価値を生み出そうとする考え方に強くひかれま

筑波大学附属病院のPFI事業^{※1}では運営段階に携わり、鹿島が建てた建物がどのように使われているのかを現場で実感することができました。設計や施工だけでなく、その後の使われ方まで見届けた経験が、現在の仕事観を形づくっています。

向かい風を力に変えて これからの社会を つくっていききたい



現在はデジタル推進室も兼務し、医療DX^{※2}やスマートホスピタル^{※3}の分野に携わっています。順天堂大学との共同研究ではプロジェクト全体を統括し、医師や看護師などの方々と対話を重ねながら、未来の医療施設の在り方を考えています。

中高生へのメッセージ

飛行機は追い風ではなく 向かい風によって飛び立つ

これまでの20年のキャリアを振り返ると、女性であるがゆえに向かい風を感じる場面もありました。そうした中で、自らの専門性を磨き、周囲とよくコミュニケーションをとり、自分の考えを積極的に発信していくことで乗り越えてきました。「飛行機は追い風ではなく、向かい風によって飛び立つ」という言葉があるように、逆境は前に進む力にもなります。

建築を通して社会に新しい価値を生み出すこと。それは私にとって、仕事を選び、続けていく上で一貫して大切にしてきた価値観です。これからも仕事を通じて、社会と向き合いながら、自分だからこそできる役割を見つけていきたいと思っています。

※1 民間の資金やノウハウを活用して、公共サービスを効率的に提供する仕組み。筑波大学は国立大学として日本で初めて附属病院の再開発にPFI方式を導入した大学

※2 デジタルトランスフォーメーション/デジタル技術を活用して、業務やビジネスの在り方を変革すること

※3 AIやIoTなどの技術を活用して、医療の質向上や業務効率化を目指す次世代型病院

根本 絢子

東京大学工学部
建築学科卒
鹿島建設株式会社
営業本部開発推進部
開発課長
兼務デジタル推進室

- 父の仕事を通して
建築が人の暮らしや街を
変える仕事だと知る
- 理系と芸術系が得意で
建築の道を目指す
- 東京大学 理科一類に入学
- 工学部建築学科へ進学し
仲間と切磋琢磨する中で
自分の適性を考える
- 学部から修士課程まで
建築計画系研究室に所属
使い手の目線で建築を考える
- 就職氷河期の中で進路を
模索し、社会に価値を
生み出す仕事を志向
- 鹿島建設に入社
- 筑波大学附属病院の
PFI事業に携わり
建物を建てた後の仕事を
経験
- 医療・福祉分野の仕事を
通して、建築の社会的な
役割を実感
- 順天堂大学と共同研究
建設×医療DXで社会に
新しい価値を創出

根本さんの「卒業生のリアル」
動画はこちらからご覧いただけます





“

設計課題に悩みながらも、都市の歴史にひかれ
建築史家に。今では空間と政治の関係性に注目し
建築・都市の歴史を研究しています

長谷川 香

東京大学工学部建築学科卒
東京藝術大学美術学部
建築科 准教授
一級建築士・建築史家

- 世界の都市や建築に
憧れた中高生時代
- 東京大学理科一類へ進学
- 世界の建築や都市を
見てみたいと考え
建築学科へ進学
- 大学院（修士課程）進学
- バリ留学で海外の都市を
体験する中で、日本・東京の
おもしろさを再発見
- 建築家やランドスケープ
デザイナーを目指す
- 設計課題や留学を通して
歴史研究に惹かれていく
- 大学院（博士課程）進学
- 国立近現代建築資料館に
勤務
- 研究の道に復帰し
博士論文を執筆・提出
- 大学教員・建築史家として
空間と政治、都市と記憶を
テーマに研究

長谷川さんの『卒業生のリアル』
動画はこちらから視聴いただけます



建築史家という、文系・ 理系の枠を超えた専門性

現在は建築史家として、建築学と歴史学が重なり合う分野で仕事をしています。一般には聞きなれない職業かもしれませんが、建築史家とは、人間が構築した建築や都市の歴史を、それを取り巻く社会や文化、技術、環境等との関わりの中で読み解く研究者です。私は特に、空間と政治の関係性に興味があり、国家的なイベントがどのような場所で行われ、人々が生活する都市空間、さらには社会にどのような影響を及ぼしてきたのかを探求しています。文系・理系の枠を超えた、とても刺激的な学問です。

建築が好き、でも歴史研究者 になるつもりはなかった

中高生時代から建築に興味があり、早い段階で建築学科を志望していましたが、歴史には疎く、歴史研究者になろうと思ったことは一度もありませんでした。大学進学後も、明確な将来像やキャリアプランはなく、その時々に関心事に没頭していたら、いつの間にか建築史家になっていた、というのが正直なところです。

世界への憧れと 日本の再発見

小さいころに影響を受けたのは、『世界遺産』や『世界ふしぎ発見!』といったテレビ番組でした。画面越しに見る世界中の都市や建築に憧れ、建築分野に進めば、それらについて学び、実際に訪れることができるのではないかと考えました。大学院時代にはパリに留学し、ヨーロッパの都市や建築を満喫しましたが、その経験を通して意外にも、日本、特に自分が生まれ育った東京という都市の面白さに気づきました。この体験がなければ、研究者にはなっていなかったと思います。

設計から歴史研究へ 関心が移った瞬間

学部時代のカリキュラムは設計課題が中心でしたが、思うように評価されず、やる気を失いかけた時期

もありました。大学院進学後は少し肩の力が抜け、設計を楽しめるようになり、建築家やランドスケープデザイナーを目指した時期もあります。ただ、設計課題の環境で敷地やそれを取り巻く都市の歴史を理解しようと調べているうちに、次第に設計よりもその過程が面白くなり、気づけば、歴史研究に自然と関心が移っていました。

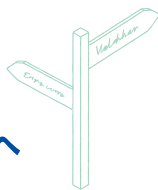
修士課程修了後はランドスケープ事務所に就職予定でしたが、修士論文を書く中で研究が楽しくなり、気持ちが変わって博士課程に進学しました。途中で休学し、国立近現代建築資料館で資料を収集・保管するアーカイブ業務に携わりました。その中で、資料のアーカイブも大事だけれど、やはり、自分は資料を使って研究することが好きなのだ実感し、復学後は博士論文に一層没頭することができました。回り道をしてきたようにも思いますが、一つひとつの経験が積み重なり、今につながっています。

中高生へのメッセージ

ビジョンを決めすぎない という選択

私は早い段階で将来のビジョンを固めることはせず、その時々で興味のあることに、自分のペースで取り組んできました。その結果、周囲の友人よりも社会に出るタイミングが遅くなり、不安や孤独を感じることもあったため、特に博士課程在籍中は自分自身のメンタルケアを重視していました。例えば、私は修士のころから日々の学びや発見をフィールドノートに記録していますが、それを定期的に見返すと、自分は少しずつでも知識を得て成長しているのだと実感でき、心が楽になります。

明確なビジョンを持ち、それに向かって行動するのは素晴らしいことですが、皆がそうでなくてもよいと思います。私のように、若干人より時間はかかっても、自分が楽しく取り組める仕事にたどり着くこともあります。今後の進路に悩んでいる学生のみなさんには、自分の好奇心と健康を大切にしながら、焦らず、自分のやりたいことをじっくり探求してほしいと思います。





“

ものづくりと仕組みにひかれて情報系へ メルカリで、日常を支えるシステムを つくっています

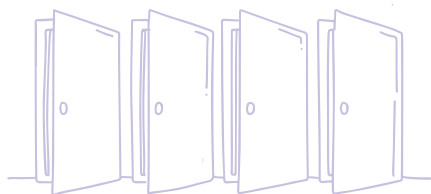


日常の裏側を支える エンジニアの仕事

今はメルカリで、アプリの検索をよくしたり、AIを動かす土台を整えたり、検索機能や機械学習の基盤づくりに携わっています。自分や家族が日常的に使っているサービスの裏側を支える仕事なので、仕事と生活が地続きになっている感覚があります。自分が書いたコードが誰かの日常を静かに支えている、そう思えるところにとてもやりがいを感じています。

仕組みで支える エンジニアとしての面白さ

仕事内容としては目立つ機能をつくるというよりも、サービスが安定して動き続けるための仕組みを整えることが中心です。日々の開発が滞りなく進むように、裏側の流れや手間を整理し、再現性のある形にしていって役割を担っています。自分の性格は、わりとマメなところと、同時に面倒くさがりなところが両方あると思っていて、そのふたつが合わさって一番面白いと感じているのが「自動化」です。例えば、コードを1ヶ所変更すると、自動でテストが走り、問題がなければそのままサービスに反映される仕組みをつくっています。最初に立ち上げるのは大変ですが、一度できてしまえば、その後は人が毎回頑張らなくても回り続ける。そういう状態をつくれた時は、少し魔法みたいだなと思っています。



ロールモデルはひとつじゃ なくていい

こうしたエンジニアとしての仕事と並行して、「Build @ Mercari」という女性向けのエンジニア支援プログラムにも関わっています。女子大学生やエンジニアを目指している方を対象に、技術的なトレーニングとインターンを通じた実践経験を提供しています。スキルアップも大切ですが、それ以上に重視しているのが、

ロールモデルに出会ってもらうことです。

ロールモデルというと、すごい人を思い浮かべがちですが、それだけではないと思っています。自分とは違うと感じる人からも学ぶことはありますし、「この人、自分と同じくらいだな」と思える存在に出会えることにも意味があります。マイノリティであるほど、そうした多様な人と出会う機会は限られてしまうので、プログラムを通して視野を広げてほしいと考えています。



中高生へのメッセージ

最初から正解を 決めなくてもいい

実際に、「Build @ Mercari」に参加した方の中には、一度はインターンに落ちたものの、数年後に再挑戦してくれた方がいました。その際には私がメンターとして受け入れ、その方はインターン期間中に大きく成長し、多くの成果を残してくれました。最終的には別の会社を選ばれましたが、「あなたのもとでインターンできてよかった」「ロールモデルとして参考になった」と言ってもらえたことが、今でも強く印象に残っています。

進路や将来について、最初から正解を決めなくてもいいということを今ではとても実感しています。やってみて違ふと感じたら、方向を変えてもいい。遠回りに見える経験でも、続けたことは必ずどこかでつながります。少しでも「やってみたい」と思う気持ちがあるなら、その感覚を大切に、一歩踏み出してみしてほしいと思います。

野上 和加奈

東京大学工学部
電気電子工学科卒
株式会社メルカリにて
ソフトウェアエンジニアとして勤務

- 理数系が好きで
東京大学理科一類へ進学
- ものづくりで社会を
支えたいと考える
- 電気電子工学科へ進学
- 電気回路やプログラミングを
学び始める
- パソコンひとつでなんでも
つくれるプログラミングに
面白さを感じ情報系の
研究室に進む
- 周囲のレベルの高さに
直面し、悩む
- 検索・機械学習など
基盤技術への関心が深まる
- メルカリに入社し
基盤開発を担当
- 自分の強みを模索する中で
「自動化」の仕組みに
出会う
- 日常を支える
システムづくりに携わる

野上さんの『卒業生のリアル』
動画はこちらからご視聴いただけます



工学部の先輩にきいてみた

◆ 在学生の ◆

REAL TALK

どうして東大を目指そうと思った？

神代 小中学生のころから算数や理科が好きで、高校生くらいの時に漫画の『宇宙兄弟』を読んでハマってしまい、宇宙工学がやりたいなと思ったんです。まずは目標を高く、東大を目指そうと思いました。

藤代 小さいころから宇宙の研究者になりたくて。東大の（当時は理学部でしたが）大学院生のチームが海外のCERN（セルン）という加速器を使って研究しているという記事を読んで、「学生でもそんな最先端の宇宙の施設で素粒子の研究とかできるの、めっちゃめっちゃいいな」と思って。そのチームがかっこよすぎて、ここに入るには東大に行くしかないと思いました。

はるか 高校の時は自分の将来について考えていなくて。受験校を選ばなきゃいけないという時に、進学選択制度が東大にはあると知り、大学で学んでみてからやりたいことを決められるのがいいなと思って東大にしました。

なるみ 私は「東大は日本一の大学だから、全国や海外からも人が集まって、きっと色々な人と出会えるんだろうな」という、出会いがたくさんありそうなところにひかれて来ました。実際、1年生のころにサークルの新歓などを通じて北海道から沖縄まで日本全国出身の学生と交流する機会があって、高校までには会ったことないような人とたくさん出会えたのはよかったです。研究室では留学生との出会いがあって、英語力を鍛えつつ関わりが持てて嬉しいなと思っています。

工学部に入った理由は？

神代 私は入学したきっかけが宇宙工学だったので、2年間その意思が揺らぐことなく工学部に入りました。原理原則を突き詰める理学的な学問よりも、新しい技術で色々なことができるようになってとか、社会が技術で発展していくという方向に興味があったこともあり、工学部が向いていると思いました。

藤代 ギリギリまで理学部の物理学科に行きたいと思っていたのですが、マテリアル工学科の太陽電池の授業を受けたのが転換点になりました。太陽電池の効率を上げるのにいかにみんなが苦労している

かを知って、すごく感動してしまって。物理や化学を使って日常生活を変えようとしている人たちがいるんだということを初めて感じて、今までロマンや夢でしかなかったものが、急に自分の使命のように思えてきて、工学部で物理をやっている「物理工学科」という学科を見つけてそっちに入りました。

はるか 進学選択の時は薬学部や理学部の化学科、工学部の化学生命工学科なども見ていたんですが、今の学科の雰囲気がすごくよかったです。先生方との距離も近いですし。工学だと、「社会でどう役立つかベース」で研究が進んでいて、社会に近いところで研究ができるんだなと感じて、直感で決めました。

なるみ 私はギリギリまで悩んで、2年生の時に取っていた授業の中で、工学部の先生の授業が面白く、それが決め手になりました。

「宇宙工学がこの年は人気」みたいなトレンドはありますか？

神代 周りを見ていると、最初から進学先を決めていた人はそんなに多くなかった印象です。とりえず東大を目指してきて、2年間かけて選ぶという人が多かった。トレンドというよりは、たまたまその年はこういうところに興味がある人が多かった、という「人依存」だった気がします。

藤代 ドラマのモデルになった研究室が物理工学科の地下にあって。見学に行ったら、主任研究者の先生がすごくダンディで、説明してくれた院生さんも素敵で。周りと比べて数学が全然できないコンプレックスを先生に相談したら「苦手だと思ってるのはまだ本当に必要としてないからで、実際に研究を始めて必要になればきっと大丈夫だよ」と言葉をかけていただきました（笑）。こんなに優しくしてくれる学科だったら行っても大丈夫かも、と思って決めたのもあります。先生の人が柄って大事ですね。

なるみ 研究室選びの単位だと、やっぱり先輩に女子がいる研究室が、その下の代の女子からも人気が集まりやすいというのはありますね。

実際に工学部に入ってみて、「ここがよかったな」という推しポイントは？

神代 演習というか、自分で手を動かして何か物をつくってみるという授業が多かったです。プログラミングを自分でやってみるとか、実際に制御して物を動かしてみるとか。覚えやすいし身につけやすいので、経験上すごくよかったなと思ってますし、今の仕事にも非常に役立っています。

あとは「工学部横断」みたいな授業があったのもよかったですね。私がいた時は「M-Skype」という、MIT（マサチューセッツ工科大学）の学生と交流する授業がありました。他の学科の学生と話す機会があったのが非常に良かったです。

他の学科の方とお話して、違いはありましたか？

神代 興味の対象は違いますが、根本的な「社会に還元する」という価値観が合う人が多かったです。

藤代 物理工学科はすごく仲がよくて、大人数で一緒に宿題をやったりしてました。先生方も面倒見がよくて、悩み事を聞いてくれたり。理学部と迷っていた時に先輩から「理学部は天才ばかりだから個人プレーになるけど、工学部はみんなでワイワイやるよ」と言われ、実際入ってみると本当にその通りで、私には合っていましたね。企業から戻ってきた先生も多く、学科内だけでもダイバーシティ（多様性）がある雰囲気もオープンで好きでした。

はるか 研究生生活は周りの先生方との距離も近いです。先生方は社会に近い研究をされている方が多く、会社と共同研究をしていたり、会社をつくっていたり。自分が話せる距離にそんなにかっこいい先生がいっぱいいる環境は、すごく恵まれているなと感じています。

なるみ 1学年1000人いる学部は他にないですよ。私の学科は50人くらいですが、3年生の授業や学生実験を3学科合同で受けたりするので、150人くらいが混合で班分けされて実験するのがすごく楽しかったです。いろんな人と出会えるのが工学部の魅力だと思います。



「工学部は女子が少ない」という点、どう感じた？

神代 私は中高6年間女子校から理一に来て、クラスに女子が私1人だけで。航空宇宙工学科も少なく、50人中2人とかでしたが、入ってみてあまり違和感はありませんでした。

男子とも課題をやったり遊びに行ったり飲みに行ったり。みんな分け隔てなく接してくれました。女子同士は、人数が少ない分、価値観も似ているし深く仲よくなれました。少ないからこそ先生も覚えてくれたりして、むしろメリットだったんじゃないかなと思います。今の職場も男ばかりですが、大学で慣れていたので違和感はありません。どこでも生きていけそうだなという経験ができました。

藤代 物理工学科は女子が3人でしたが、女子同士だけでなく男子とも仲間という感じで、本当に楽しい学生生活でした。卒業してからも定期的に飲み会があったり、今は子育てトークをしたり、月日の流れを感じます。

はるか 全く同意見です、実際に入ってみたら特に違和感なく。私の研究室は実は女子が結構多くて、半分くらい女子がいます。助教の先生も女性です。多いところには多い、という感じですね。

なるみ 私の代は女子50人中10人くらいいて、あんまり女子が少ない感じはしませんでした。女子トイレが混まないのいいな、くらいしか感じたことがないです(笑)。

神代 課題を一緒にやるというのは工学部あるあるですよ。航空宇宙学科も製図の課題を製図室にこもって夜中までみんなでひとつのプロジェクトをやっていくような経験はすごく多くありました。

会社に入ってからプロジェクトをみんなでやるのと共通している？

神代 似ていると思います。一人の力ではどうにもならないことを複数人で進めていく。プロジェクトマネジメントの基礎を学べたのかもかもしれません。

最後に、学生の方に今後の進路を伺いたいです。

はるか 私は修士2年ですが、博士課程にあと3年行こうかなと思っています。修士で卒業して働こうかなと思った時期もありましたが、博士で活躍されている研究室の先輩や先生方がかっこよくて憧れを感じたのと、今の生活が楽しいので進路を決めました。

なるみ 私は学部4年生で、次は修士課程に進学することが決まっています。9割くらいの人は修士に行くので、それはもう当たり前のものとして考えていました。その先のことはあまり決めきれていなくて悩んでいます。

工学部への進学を考えている女子中高生の方へメッセージをお願いします。

神代 東大は本当に最先端の技術を扱っているところが多くて、卒業してから「あの時触れてた技術って本当に最先端だったんだな」と貴重さを感じる人が多いです。女子が少ないのはデメリットと思われるかもしれませんが、入ってみたらどうにでもなるし全然気にならないので、チャレンジしてほしいと思います。

藤代 工学部はいろんなバックグラウンドや目標を持った人がいる環境です。基礎研究と応用研究のいいとこ取りみたいな雰囲気を持った学科もあるので、企業に行くか研究者になりたいかまだわからないという人にこそ、ちょうどいい選択肢なのかなと思います。

はるか 直感的に楽しそうだなと思ったら、多分楽しいことしかないので。自分が向いてないかも、と心配しているようなことは起こらないので、直感で選んで来てくれたら嬉しいと思います。

なるみ 工学部って懐が広いというか。化学システム工学科もやる幅が広くて、何かしらひとつづつは自分の興味に引っかかるんじゃないかなと思います。安心して進路を選んで大丈夫だと思います。

神代 自分のプロフィールを後から見ると、一見すごくよく考えた一本道みたいに見えるかもしれませんが、全然そんなことはなくて。とりあえず興味があることを試してみて、つなげていけば最後は一本の道に見えるだけです。寄り道しながら歩いても最後にはすべてがよい経験になると思うので、まずは興味がある方向へ足を踏み出してみてください。



東大工学部をもっと知りたい

東京大学大学院工学系研究科・工学部に関連するイベント情報やメディアについて、オンラインで公開されているものを集めました。QRコードから気になったコンテンツにアクセスしてみてください！

イベントに参加してもっと知りたい！

高校生のためのオープンキャンパス

東京大学で行われている研究や教育について、高校生などこれから大学への進学を考えている方々に知ってもらうためのイベントです。工学部からも高校生に向けた企画を多数開催しています。毎年8月上旬に、全国どこからでも参加できるよう、オンラインで開催しています。



メタバース工学部

METaverse SCHOOL OF ENGINEERING
JUNIOR ENGINEERING PROGRAMS

メタバース工学部は、すべての人が最新の情報や工学の実践的スキルを獲得して夢を実現できる社会の実現を目的として設立されました。中高生やその保護者、教師のみなさんに工学の魅力を知っていただくために、ジュニア講座を開講しています。



デザイン、AI、医療・健康、数理科学・VRなど、「これも工学?」と思えるような多彩なテーマの講座をたくさん開講しています。企業と一緒にやる講座もあり、大学卒業後のキャリアについて考えることもできます。オンラインの講座を中心に、対面とオンラインのハイブリッド形式の講座もあります。参加費は無料です。ぜひお気軽に、最先端の研究をしている先生たちのお話を聞いてみてください。

HPやInstagramなどで幅広く情報を発信しています。

講座一覧



Instagram



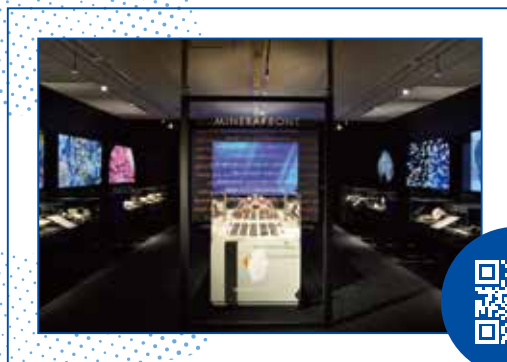


◆ HASEKO KUMA HALL

HASEKO-KUMA HALL は、東京大学大学院工学系研究科・工学部の発信、交流拠点です。シンポジウム等の開催や日常の学習、交流場所として人気があります。ラウンジには 41 個の木の箱「知恵の巣箱 -nest of wisdom」が並び、東京大学工学部の多様な wisdom が展示されます。

◆ ミネラフロント

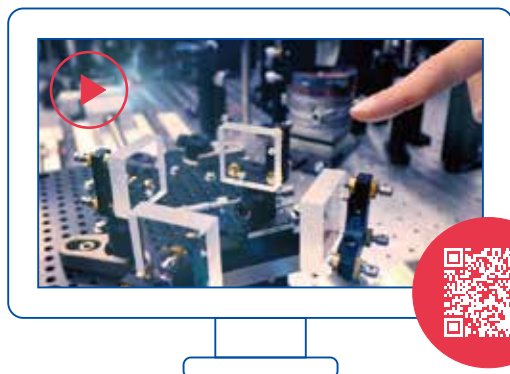
日本国内で産出した美しい鉱物標本を収集・公開するとともに、深海や宇宙におけるフロンティア資源の開拓に向けた最新の研究成果を発信しています。常設展示のSITE1と、月2回程度開室する特別展示のSITE2があります。



動画を見てもっと知りたい！

◆ 東京大学 大学院工学系研究科・工学部 YouTube

東京大学 大学院工学系研究科・工学部の公式 YouTube チャンネルです。このページで紹介した動画コンテンツの他にも、工学研究の紹介や講演の様子、学生インタビューなどを動画で楽しむことができます。



過去のイベントの動画も配信中！

東大工学部 × QuizKnock AI が好きになっちゃう放課後 ～ AI と人間が新しい世界をつくる～



人工知能研究の第一人者である松尾豊先生と、新進気鋭の物理学者・沙川貴大先生が、東大発の知識集団・QuizKnock と共に、ディープラーニングや生成 AI

をテーマに講座を開講しました。QuizKnock のメンバーが生成 AI での作文作りも実演。体験しながら楽しく AI について学びました。安田講堂とオンラインからたくさんの方が参加し、オンライン上で寄せられた質問の数は 600 件にも上りました。熱気に溢れた当日の様子をぜひご覧ください。



高校生コラボ講座・ 生命知能と人工知能 ー脳をリバースエンジニアリングするー



中高生の神経科学のコミュニティのメンバーと一緒に開催した講座。冒頭のテーマはなんと、「(東大)受験必勝法」?!

受験勉強と研究の違いも解説。勉強のやる気が出ないな……と感じている方は、ぜひ神経工学の専門家である高橋宏知先生のお話を聞いてみてください。脳のしくみを知ると納得できることがたくさんあります。



工学部 への 道のり

東京大学工学部へ進学するにはどのようなルートがあるのかをご紹介します！

COLUMN

工学部には全ての科類から進学できますが、実際に進学する学生の多くは理科一類です。進学選択においては、学部・学科ごとに各科類の募集人数が設けられていますが、工学部ではおおむね理科一類からの募集人数を多く定めています。

1

東京大学を受験すると決める

2

受験する

東京大学を受験する時に、進む学部を決める必要はありません。学部ではなく文科一、二、三類、理科一、二、三類という6つの科類の中から1つを選んで受験します。1,2年次の必修講義や、のちの進学選択で進みやすい学部が各科類で異なります。また、あらかじめ進む学部を選択して受験する学校推薦型選抜もあります。※

文一～三

理一

理二

理三

推薦

学校推薦型選抜

3

学部 1・2 年(前期課程)

自分の興味を模索

文系理系
いろんな人たちと
仲よくなる！

入学後は科類を問わず、全員が教養学部の前期課程に所属します。必修の基礎科目を習得することはもちろんですが、その他にも文理問わず様々な講義を履修することができます。自身の興味がある分野を広く探ることができます。工学部の先生も様々な講義を開講しています。

推薦生 学部 1・2 年

一足早く工学の世界へ

学校推薦型選抜で工学部を志望し合格した人は、他の科類の人と同じくまずは教養学部の前期課程に所属することになりますが、進学選択には参加しません。また、前期課程の間に一足早く工学部の専門科目を履修できたり、工学部の学部生向けの海外研修やイベントに応募することができます。

4

学部 2 年6月

進学選択

いよいよ進学先を選択！

前期課程の成績や学科とのマッチングによって入る学部や学科が決まります。

- ☑ 社会基盤学科 ☑ 建築学科 ☑ 都市工学科 ☑ 機械工学科
- ☑ 機械情報工学科 ☑ 航空宇宙工学科 ☑ 精密工学科 ☑ 電子情報工学科
- ☑ 電気電子工学科 ☑ 物理工学科 ☑ 計数工学科
- ☑ マテリアル工学科 ☑ 応用化学科 ☑ 化学システム工学科
- ☑ 化学生命工学科 ☑ システム創成学科

進学選択、とことん悩んで、
納得いくまで、1年かけてじっくり選ぼう。

推薦生の 学科選択

推薦生は原則として合格した学科群の中から進学先を選びます。

5

学部 3・4 年(後期課程)

工学部に進学

専門の授業が始まるよ！

どうして工学部を選んだの？

高校時代は演劇部でドラマが好きでした。『下町ロケット』というドラマを見てものづくりに興味を持って、高校のイベントに参加したりオープンキャンパスに行ったりして工学部に決めました。

やりたい研究が
たまたま工学部に
あったから！

ものづくりが好きな人たちに
囲まれていたいなって
思ってた工学部にしました。

学生's
VOICE

大学院工学系研究科長
工学部長
津本 浩平 先生

(未来を創る工学)

2026
INTERVIEW

QUESTION
Q1

東大工学部の魅力はどこにありますか？

工学の面白さは、異なる分野の知見を組み合わせることで社会の課題を解決できるところにあります。私自身は物理化学の手法を創業に応用していますが、工学部には分野横断的な発想で新しい価値を生み出す先生がたくさんいます。気候変動、エネルギー、超高齢化など、複雑な問題に工学的なアプローチで向き合い、地球と人類社会にとってよりよい未来をつくるのが工学の大きな使命です。東大工学部では、幅広い分野で最先端に挑む多様な研究仲間と学び合い、自らが成長していくことができます。みなさんが「自分は何をやるのかな」と考えたときに、工学部にはその答えにつながる豊かな選択肢があります。

QUESTION
Q2

先生が研究科長として女子学生比率の改善に取り組んでいるのはなぜですか？

工学の幅広い研究分野に取り組むにあたって、多様な視点は不可欠です。性別や年齢、立場などにとらわれることなく、誰もが先進的な学び、研究に挑戦できる環境をつくりたいと考えています。現在、東大工学部の女子学生比率は約13%（2025年5月1日現在）と、まだまだ十分ではありません。多様性を尊重し、一人ひとりの個性を生かすインクルーシブな環境を実現することで、工学部から生まれる研究や技術もより豊かなものになると確信しています。



KOHEI TSUMOTO

津本 浩平

東京大学大学院工学系研究科長・工学部長、
バイオエンジニアリング/化学生命工学専攻教授。
生命分子相互作用を基盤に、抗体工学、創薬、
生命金属科学を展開する研究者。
抗体や疾患関連タンパク質の相互作用を
分子レベルで解析し、バイオ医薬・診断薬・
新規治療法の開発につなげている。

QUESTION
Q3

女子学生の比率を上げる
ために行っている具体的な
取り組みはありますか？

ハード面では、2024年5月より休養室・育児支援室の運用をスタートしました。体調が悪い時や子どもに授乳する時のためにそのような部屋が欲しい、という声が女性の先生方や研究者の方などから届いていて、環境整備が重要だと考えたからです。また、2024年4月より工学部内の約15カ所で生理用品の無償提供も実施しています。女性用トイレをこれまで以上に増やしていくことにも取り組んでいます。ソフト面では、ダイバーシティやコンプライアンスに関する理解を深めるとともに、ハラスメントを許さない文化を醸成するため、教員向け研修や学生向けの研修・啓発コンテンツの提供を行い、構成員一人ひとりの意識の醸成に取り組んでいます。

QUESTION
Q4

高校生の時に
やっておくといことは
ありますか？

「正解」を早く求めすぎないでほしいですね。研究の本質は未知と向き合うことにあります。何かを突き詰めて頑張る経験を積んでほしいですし、その過程で失敗しても構いません。寄り道が結果として最短距離になることも多いんです。文系・理系の境界を越える学びがますます大切になっています。ひとつの道に縛られず、自分らしい選択を重ねながら生きていくことが、より当たり前の時代になりつつあります。自分の好きなことに勇気を持って一歩踏み込んでみてください。工学部には、みなさんの「やりたい」を受け止められる懐の深さがあります。

工学部生の頭の中

受験勉強のアドバイス、工学部に進んでみての感想、おすすめのグルメや場所など…リアルな工学部ライフを現役工学部生みなさんに聞きました！

Q1. おすすめの勉強法は？

2次試験は時間が長いので、それを乗り越えられる集中力と体力作りを意識して／1週間のうち2日間を脱力日とし、その日は週の復習をした残り時間で遊ぶ／自分で計画を立てること。合格までに何が必要かを洗い出し、月ごとに目標を立てる／1つの問題集や学校で配られる教科書・参考書を完璧にする／苦手な単元はまとめて一気にやる／苦手科目を積極的に解いて好きなどころを見つける／頭がいい人と先生を遠慮なく頼る。あとは演習あるのみ！

Q2. 受験勉強中、どうやってモチベーションを維持した？

東大生協で東大のロゴマークが入っているシャーペンを使って勉強に取り組み、あともう少しでこの大学に入学するんだ！と自分を励ました／努力を目に見える形にすることは大事！私は日々の勉強時間や、達成したタスクを記録していた／やり切ったことを週の初めに決め、それだけは守る／好きな曲を聴きながら勉強／クラスの友達と話したり、パン屋に行ったり

Q3. 今だから受験生に言えるアドバイスは？

受験する科類はよく考えた方がいい！進学選択の大変さが全然違うところもある／自分を褒めてくれる人や、一緒に頑張れる友達が大事！大変だと思うが、自己肯定感を高めながら楽しく勉強できれば大丈夫／情報収集も大事だが、逆にネットにあふれる情報に惑わされすぎるとよくない。不安をおおる広告などに左右されないこと／継続が大切！焦らず、一步一步を着実に

Q4. 工学部を選んだ決め手は？

理論を追求する理学より、実際に自らの手で何かを作りたいかった。なにかもの作りをしたりその技術を学んだりしたいと思って選びました／社会との近さ／ものを動かしてみたいという興味と学科の多さ／駒場生のときに受けた授業が面白かった



研究室で初めて触ったロボット

Q5. 実際に進んでみて、工学部のイメージはどう変わった？

「The 真面目理系学生」という人よりは勉強以外にも特技があるような面白い人が多い。学科も様々なので本当にいろんな人がいる／「The 工学」な勉強・研究だけではなく意外と基礎よりのこともやっている。想像よりも多様な分野の世界最先端に触れられる／工学にこだわらず、バランスよく自分の実力が向上できるようにカリキュラムが組まれていた

Q6. 女性が少ない環境、どうだった？

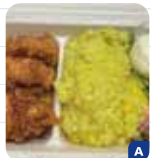
学科により女子比率は1～2割。少ないぶん女子同士すぐ仲よくなる！日常的には少なさを感じないが、家賃補助など女性向け配慮で優遇を感じることもあれば、男子特有のノリにたまに居心地の悪さを感じることもあった／女子校出身で進学前は不安だったが、何も困らなかった／他で女子コミュニティを作っていたので苦痛もなかった／最初は相談相手が少なく不慣れだったが、結局は男女問わず仲よくなっている



韓国旅行の似顔絵イラスト

Q7. おすすめの東大グルメは？

「Tokyo Light Blue Hongo-3」／【A】キッチンカーの「ロケットチキン」!! 衣が特徴的で美味しい!／駒場の「ムスカン」! インドカレーのお店でお腹いっぱい食べられる! サークル後に先輩後輩みなでよく行っていました!／本郷の「用心棒」。二郎系ラーメンのお



A



B



C

店。普通盛りでもかなり多いので全員にはおすすめできないが、乗っている豚肉が分厚くて柔らかくて最高!「味噌煮込み」! イタリアン味噌煮込みうどんというユニークなメニューが楽しめる! 【B】「アンモナイトコーヒーマーケット」! 【C】「armadillo bakes & coffee」! 「根津のパン」! 「た喜ちーtakichi-」

Q8. キャンパス内で気に入りの場所は？

総合図書館! 心が落ち着くし、周りの頑張る姿にやる気が湧く場所! レポート用の参考書も大体揃って便利。中央階段の赤カーペットなど、重厚な内装にもテンションが上がる! 【D】三四郎池。木々に囲まれているため他の場所と隔絶されていて、キャンパス内とは思えない雰囲気がある! 【E】工学部3号館! 吹き抜けになっていて開放感がある! 【F】総合図書館B1Fライブラリープラザと本館をつなぐ地下通路が雰囲気あって好き! HASEKO KUMA HALL。ホールに隣接したスタバ、中央食堂2階、基本的に本があるところが好き



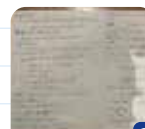
D



E

Q9. 学生時代いちばんの思い出は？

空手サークルで過ごした日々! 運動部経験が全くない中でのスタートだったが、心身ともに強くなったのはもちろん、良い人々と長く続く関係を築けた! 学部4年生のときにオーケストラと吹奏楽団を合わせて4つ掛け持ちしたこと! 【G】友達と議論をしながら課題に取り組んだこと! 吹奏楽サークルでの演奏会! 【H】部活の引退試合で勝てたこと



G



H

